2　　訪問の合図 　文法　用言②　形容詞・形容動詞

は、㋐年ごろあるの女房のもとへ通はれけるが、あるとき、おはしたりけるに、その女房のもとへⓐやんごとなき女房①につてやや久しう物語しふ。もⓑはるかに更けゆくまでに、客人帰り給はず。②忠度にしばしやすらひて、扇をⓒ荒く使はれければ、宮腹の女房、「③野もせにすだく虫のよ」とに㋑やさしう口ずさみ給へば、薩摩守やがて扇を使ひやみて帰られけり。そののち、またおはしたりけるに、宮腹の女房、「さても、なにとて扇をば使ひやみしぞや」と問はれければ、「いさ、ⓓかしかましなんど聞こえ候ひしかば、さてこそ使ひやみ候ひしか」とぞのたまひける。

語注

薩摩守忠度＝薩摩国の国司である平忠度。平安時代末期の武将・歌人。

宮腹の女房＝皇女の子である女房。

野もせにすだく虫の音よ＝「かしかまし野もせにすだく虫の音よ我だにものをいはでこそおもへ」の和歌の一部。歌意は、「やかましいことだ。野原せましと集まって鳴く虫の音よ。私でさえもじっとあなたのことを思っているのに。」

【原文】

は、年ごろあるの女房のもとへ通はれけるが、あるとき、おはしたりけるに、その女房のもとへやんごとなき女房につてやや久しう物語しふ。もはるかに更けゆくまでに、客人帰り給はず。忠度にしばしやすらひて、扇を荒く使はれければ、宮腹の女房、「野もせにすだく虫のよ」とにやさしう口ずさみ給へば、薩摩守やがて扇を使ひやみて帰られけり。そののち、またおはしたりけるに、宮腹の女房、「さても、なにとて扇をば使ひやみしぞや」と問はれければ、「いさ、かしかましなんど聞こえ候ひしかば、さてこそ使ひやみ候ひしか」とぞのたまひける。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

〔　　　　　　　〕が〔　　　　〕と話している間、忠度は〔　　　　〕で過ごし、〔　　　〕を荒々しく使っていた。女房は和歌の一節を〔　　　　　　〕、それを聞いた忠度は帰った。後日、女房は〔　　　〕を使うのをやめた理由を尋ねた。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。（㋑は終止形でよい。）〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ〜ⓓの活用の種類と活用形を答えよ。〈2点×4〉

ⓐ〔　　　　〕活用〔　　　　〕形　ⓑ〔　　　　〕活用〔　　　　〕形

ⓒ〔　　　　〕活用〔　　　　〕形　ⓓ〔　　　　〕活用〔　　　　〕形

問四　チェック問題　用言②　形容詞・形容動詞

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 漫々たり | | きよらなり | | いみじ | | なし | | 基本形 |
|  | |  | |  | |  | | 語幹 |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 命令形 |
|  | |  | |  | |  | | 活用の種類 |

次の活用表を完成させよ。〈1点×4〉

問五　傍線部①について、

⑴ 含まれている音便の種類をすべて答えよ。〈3点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵ 現代語訳せよ。〈5点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②での忠度の説明として最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　客人が深夜になっても帰らないことを、じれったく思っている。

イ　大切な客人に気を遣わせないように、何気ないふりをしている。

ウ　虫の多さに不快感が募り、思わず乱暴な行動をとっている。

エ　帰らない客人へのいらだちが、虫の鳴き声で少し和らいでいる。

〔　　　〕

問七　傍線部③とあるが、宮腹の女房は何を「虫の音」にたとえたのか。十五字以内で答えよ。〈8点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問八　本文の内容と合致するものを一つ選べ。〈8点〉

ア　忠度は、客人と長話をしていながら、自分が帰ったことをとがめようとする宮腹の女房に不快感を覚えている。

イ　忠度は、宮腹の女房の歌の意を理解して帰ったのに、その理由をわざわざ尋ねてくる女房の真意を測りかねている。

ウ　忠度は、答えの明らかなことを尋ねる宮腹の女房に、わざとはぐらかす言葉を返して風流な戯れを楽しんでいる。

エ　忠度は、客人の帰りを待てずに立ち去ったことを、宮腹の女房がふと口ずさんだ歌を利用して弁解している。

〔　　　〕

【解答】

問一　宮腹の女房　客人　軒端　扇　口ずさみ　扇

問二　㋐＝長年・数年来　㋑＝優美だ・上品だ〈4点×2〉

問三　ⓐ＝ク活用・連体形　ⓑ＝ナリ活用・連用形〈2点×4〉

ⓒ＝ク活用・連用形　ⓓ＝シク活用・終止形

問四〈1点×4〉

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 漫々たり | | きよらなり | | いみじ | | なし | | 基本形 |
| 漫々 | | きよら | | いみ | | な | | 語幹 |
|  | （たら） |  | なら | じから | （じく） | から | （く） | 未然形 |
| と | たり | に | なり | じかり | じく | かり | く | 連用形 |
|  | たり |  | なり | ○ | じ | ○ | し | 終止形 |
|  | たる |  | なる | じかる | じき | かる | き | 連体形 |
|  | （たれ） |  | なれ | ○ | じけれ | ○ | けれ | 已然形 |
|  | （たれ） |  | （なれ） | じかれ | ○ | かれ | ○ | 命令形 |
| タリ活用 | | ナリ活用 | | シク活用 | | ク活用 | | 活用の種類 |

問五　⑴＝促音便・ウ音便〈3点〉

⑵＝客人としてやって来てかなり長くお話しになる。〈5点〉

問六　ア〈6点〉

問七　忠度が荒々しく使う扇の音。（13字）〈8点〉

問八　ウ〈8点〉

【現代語訳】

薩摩守忠度は、数年来ある宮腹の女房のもとへお通いになったが、ある時、（薩摩守がその女房のもとに）いらっしゃった時に、その女房のもとへ高貴な女房が客人としてやって来てかなり長くお話しになる。夜もかなり更けていくまでもずっと、客人はお帰りにならない。忠度は軒先にしばらくとどまって、扇を荒々しくお使いになったところ、宮腹の女房は、「野も狭いほどにすだく虫の音よ」と上品に優雅に口ずさみなさるので、薩摩守はすぐに扇を使うのをやめてお帰りになった。その後、また（薩摩守がその女房のもとに）いらっしゃった時に、宮腹の女房は、「ところで先日、どうして扇を使うのをやめたのか」とお尋ねになったところ、「さあ、やかましいなどと聞こえましたので、そういうことで（扇を）使うのをやめました」と（薩摩守は）おっしゃった。

【補充問題】

問１　「薩摩守やがて扇を使ひやみて帰られけり」（４行目）を現代語訳せよ。

問２　「なにとて扇をば使ひやみしぞや」（５行目）における「し」を文法的に説明せよ。また、本文中に同じ助動詞が異なる活用形で用いられているが、その活用形を答えよ。

【補充問題解答】

問１　薩摩守はすぐに扇を使うのをやめてお帰りになった

問２　過去の助動詞「き」の連体形・已然形